

<特集「受動表現」>

閩語雷州方言における受動表現 Passive Expressions in Leizhou Dialect of Min

譚 坤明
Kunming Tan

京都大学大学院文学研究科
Graduate School of Letters, Kyoto University

要旨: 本稿は特集「受動表現」(『語学研究所論集』第14号, 2009, 東京外国語大学) に寄与する。本稿の目的は10個のアンケート項目に対する閩語雷州方言のデータを与えることである。

Abstract: This paper contributes to the special cross-linguistic study on Passive Expressions (*Journal of the Institute of Language Research* 14, 2009, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer data on Leizhou dialect of Min regarding the 10 provided sentences.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001465>

キーワード: 閩語, 雷州方言, 受動文

Keywords: Min, Leizhou dialect, passive expression

1. はじめに

本稿はアンケート調査に基づいた例文を用いて、閩語雷州方言(以下、「雷州方言」と称する)の受動表現を紹介する¹。第1節にて雷州方言について概観し、本稿の調査概要を述べたのち、雷州方言の音韻体系を説明する。第2節にて受動表現に関するデータを提示する。

1.1. 閩語雷州方言について

閩語は中国語の十大方言の一つとされ、雷州方言はその下位方言である。「雷州方言」という呼称は、広義では広東省西部の雷州半島で広く話される閩語の一方方言を指す。同半島において分布域が最も広く、話者人口が最多の方言であり、現地では「黎話」(*li²²ue²⁴*)とも呼ばれる。一方で、雷州市雷城街道およびその近隣の郷鎮で話される方言を指し、狭義の「雷州方言」という呼称が用いられることもある(張・蔡 1998)。本稿では広義の「雷州方言」という呼称を採用する。

雷州方言の分布地域は、主として雷州市・徐聞県・遂溪県および湛江市麻章区に広がっている。さらに、廉江市・吳川市・茂名市電白区の一部地域にも分布が確認されている(張 1986, 林 2006)。雷州方言の分布地域の詳細は図1を参照されたい。林(2006)によれば、雷州方言の話者人口は約五百万人である。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 本稿の執筆にあたり、調査にご協力を賜った母語話者の鄧劍媚氏および譚妃彪氏、ならびに日本語文章についてご助言いただいた須田光太郎氏に、ここで感謝の意を表する。

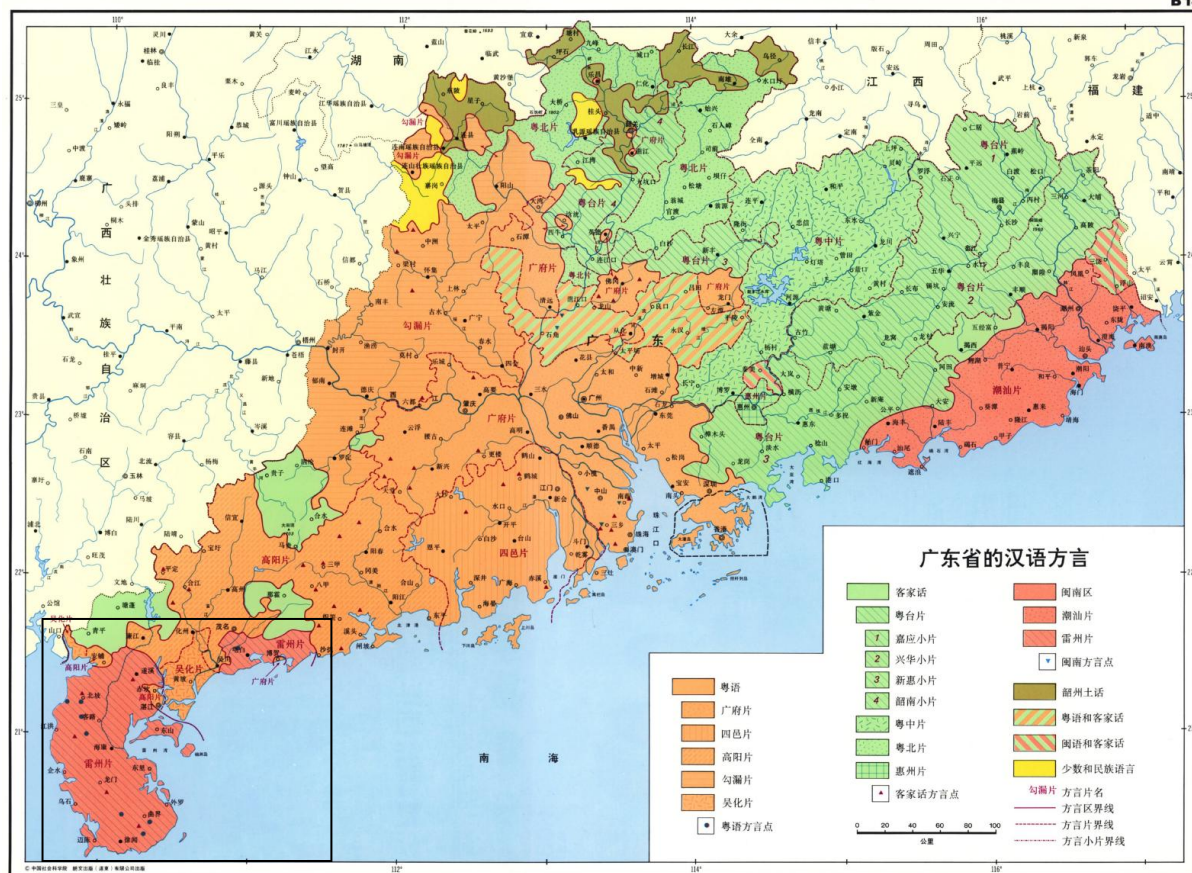


図1 中国広東省の方言地図

(中国言語地図集 1987: B13, 四角枠内の赤色部分は雷州方言の分布地域)

雷州方言は内部で共有されている特徴が多く、各地の雷州方言の間で相互理解が概ね可能である(張・蔡 1998). しかし、雷州方言全体の分布域が広く、話者人口も多いことから、地域ごとに発音上の差異が存在する(蔡 1993: 5). 一般に、雷州市雷城街道の発音(以下「雷城話」とする)が雷州方言の「標準音」と見なされる. その理由は、雷城が歴史的に雷州府の府庁所在地であり、かつて雷州半島の政治・経済・文化の中心であったためである. 現在、雷州半島の伝統演劇である雷劇や、湛江市の雷州方言放送においても雷城話が採用されている(張 1986, 蔡 1993: 3). これに対し、雷州半島北部の廉江市および南部の徐聞県の雷州方言は、雷城話と比べて音韻面で差異が見られる. 例えば、廉江市横山鎮の方言では無声唇齒摩擦音 [f] と無声歯茎側面摩擦音 [h] が確認されており、また徐聞県徐城街道の方言では両唇入破音 [β] と歯茎入破音 [d] が確認されている(張・蔡 1998).

雷州方言は閩語の下位方言であるが、閩語内部での系統上の位置づけについては、研究者の見解が分かれる. 先行研究の一部では、雷州方言は閩南語の一方方言とされる. 閩南語は、中国福建省南部の泉州・厦門・漳州などに分布する閩語の一方方言である. 雷州半島の先民は、唐宋期以降に福建省中部・南部から移住してきたとされる. 蔡(1993: 2)はこの移住史に基づき、雷州方言と閩南語の間に歴史的な関連があると論じる. 甘・周(2005)も音韻体系全体の類似度から見れば雷州方言は閩南語に最も近いと述べる.

これに対し、雷州方言を閩南語とは独立したものとみなして、閩語海南方言とともに「瓊雷語」を構成していると主張する立場もある. 侯(2002)は、雷州方言・海南方言と閩南語の間には音韻や語彙の

面で大きな差異があると指摘する。また、钱（2002）は、雷州と海南のみに共通し他の閩語区には共有されていない 71 項目の語彙を整理・分析し、これに基づき、瓊雷語を閩語直下の一方言区に分類しようとする。一方、『中国言語地図集（第 2 版）』（2012）は雷州方言と海南方言を区分したうえで、それぞれを閩語の独立の一方言区として位置づけている。

また、雷州方言は周辺の方言および少数民族言語と接触してきた。雷州半島には雷州方言のほか、北部に広東語と客家語が分布する。とりわけ広東語は広東省において社会的影響力の大きい地域方言であり、雷州半島も広東省に属する地域であるため、雷州方言は広東語の影響を受けている（甘・周 2005）。そのため、複数の方言を話す話者も少なくない。さらに、歴史的に雷州半島は少数民族の集住地域であり、福建省から移住した漢族住民の言語は、閩語の主要な特質を保持しつつも、長期の民族融合の過程で少数民族言語の影響を受けている。雷州方言の音韻・語彙・文法においてはタイ・カダイ語族の痕跡が認められる（蔡 1993）。

1.2. 本稿の調査概要

本稿の調査地は広東省湛江市麻章区に位置する硃洲（ナオチョウ）島である。硃洲島は雷州半島の東側に位置する（図 2 参照）。本稿のデータは、硃洲島出身の雷州方言母語話者 2 名を対象とした調査に基づくものである。協力者 A は硃洲島南部の西埠村出身の 30 代女性、協力者 B は硃洲島中部の北賽村出身の 50 代男性である。両者の母語はいずれも雷州方言であるが、普通話（標準中国語）も話す。協力者 B は広東語も話す。

多くの例文について、両協力者から得られたデータはほぼ一致した。語ごとの発音差が生じた場合には脚注で注記する。同一例文に対して両者の言い方が大きく異なる場合には並列表記とし、文末の括弧内にデータ提供者を明示する。

1.3. 雷州方言の音韻体系

以下では、雷州方言の音韻体系を紹介する。雷州方言には母音が 5 個あり、表 1 に示す通りである。そのうち、音素 /ɛ/ が /p/, /k/, /m/, /ŋ/ などの音節末子音の前に現れる場合、[e] として実現される。

表 1 雷州方言の母音音素（蔡 1993: 13 を基に作成）

	前舌		後舌	
	非円唇	円唇	非円唇	円唇
狭	i			u
半狭	ɛ			ɔ
広	a			

湛江市地图（政区版二）



图2 湛江市の行政区画 (出典：広東省自然資源庁)

子音は表 2 に示す通りである。雷州方言の子音は計 17 個である。なお、両唇破裂音 /b/ は、硃洲島では唇歯摩擦音 /v/ として実現されることが多い。歯茎音 /s/, /z/, /ts/, /tsʰ/ が母音 /i/ の前に現れる場合、それぞれ歯茎硬口蓋音 [c], [z], [t͡ɕ], [t͡ɕʰ] になる。また、声門閉鎖音 /ʔ/ もオンセットの位置に現れうるが、本稿では表記上、この声門閉鎖音を省略し、母音で始まる形で示す。

表 2 雷州方言の子音音素 (朱 2005 を基に作成)

調音方法		調音位置		両唇	歯茎	軟口蓋	声門
		無声	有気				
破裂音	無声	無気		p	t	k	ʔ
		有気		pʰ	tʰ	kʰ	
	有声	無気		b			
摩擦音	無声				s		h
	有声				z		
破擦音	無声	無気			ts		
		有気			tsʰ		
鼻音	有声			m	n	ŋ	
側面接近音	有声				l		

雷州方言には声調が 8 種類あり、表 3 に示す通りである。本稿では、一部の調値表記（声調の高さの数値表記）に蔡 (1993) と異なるものを採用している。蔡 (1993) では T2 の調値を /11/ と記すが、本稿では /22/ とする。T8 の調値については、雷州市では /2/ で T2 と同じ高さであるのに対し、本稿の調査地である硃洲島では /3/ で T4 と同じ高さである。したがって、本稿では T8 の調値を /3/ と記す。

表 3 雷州方言の声調 (蔡 1993: 14 を基に作成)

	平声	上声	去声	入声
陰調	T1: 陰平 24	T3: 陰上 42	T5: 陰去 21	T7: 陰入 5
陽調	T2: 陽平 22	T4: 陽上 33	T6: 陽去 55	T8: 陽入 3

さらに、雷州方言には連続変調 (tone sandhi) が存在し、以下の規則が観察される。二音節が連続する場合は前音節のみが変調する。変調の対象となる声調は T1・T3・T5 に限られる。張 (1987) および林 (2006: 10–11) によれば、T1 は後続声調にかかわらず変調し、調値は /33/ となる。T3 は T1・T2・T3・T4 の前位置で変調し、/55/ となる。T5 は T1・T2・T3・T4・T5・T8 の前位置で変調し、/55/ となる。各変調パターンの例は (i) から (xviii) に示す。

- (i) T1+T1 慢慢 [maŋ²⁴ maŋ²⁴] → [maŋ³³ maŋ²⁴] 「ゆっくりと」
- (ii) T1+T2 施肥 [ei²⁴ pui²²] → [ei³³ pui²²] 「施肥する」
- (iii) T1+T3 芳水 [pʰaŋ²⁴ tsui⁴²] → [pʰaŋ³³ tsui⁴²] 「香水」
- (iv) T1+T4 兄弟 [hia²⁴ ti³³] → [hia³³ ti³³] 「兄弟」
- (v) T1+T5 机器 [ki²⁴ kʰi²¹] → [ki³³ kʰi²¹] 「機械」
- (vi) T1+T6 烧鸭 [ei²⁴ a⁵⁵] → [ei³³ a⁵⁵] 「アヒルの丸焼き」

(vii)	T1+T7	山竹	[sua ²⁴ tip ⁵]	→	[sua ³³ tip ⁵]	「マンゴスチン」
(viii)	T1+T8	鸡翅	[kɔi ²⁴ eiek ³]	→	[kɔi ³³ eiek ³]	「手羽先」
(ix)	T3+T1	祖公	[tseu ⁴² kɔŋ ²⁴]	→	[tseu ⁵⁵ kɔŋ ²⁴]	「祖父」
(x)	T3+T2	枕头	[teim ⁴² t ^h au ²²]	→	[teim ⁵⁵ t ^h au ²²]	「まくら」
(xi)	T3+T3	好好	[hɔ ⁴² hɔ ⁴²]	→	[hɔ ⁵⁵ hɔ ⁴²]	「ちゃんと」
(xii)	T3+T4	水利	[tsui ⁴² li ³³]	→	[tsui ⁵⁵ li ³³]	「水利工事」
(xiii)	T5+T1	汽车	[k ^h i ²¹ tɛ ^h ia ²⁴]	→	[k ^h i ⁵⁵ tɛ ^h ia ²⁴]	「自動車」
(xiv)	T5+T2	过年	[kuɛ ²¹ hi ²²]	→	[kuɛ ⁵⁵ hi ²²]	「年を越す」
(xv)	T5+T3	报纸	[pɔ ²¹ tsua ⁴²]	→	[pɔ ⁵⁵ tsua ⁴²]	「新聞」
(xvi)	T5+T4	记着	[ki ²¹ tiɔ ³³]	→	[ki ⁵⁵ tiɔ ³³]	「覚えておく」
(xvii)	T5+T5	放炮	[paŋ ²¹ p ^h au ²¹]	→	[paŋ ⁵⁵ p ^h au ²¹]	「爆竹を鳴らす」
(xviii)	T5+T8	教育	[kia ²¹ ziok ³]	→	[kia ⁵⁵ ziok ³]	「教育」

蔡 (1993: 21) では、雷州方言の連続変調は語内部の構造と関係することが述べられている。同書では、語を構成する二つの形態素の関係が主述関係（主語＋述語）、並列関係、動目関係（動詞＋目的語）、修飾関係の四種である場合について、それぞれの変調の有無が論じられている。主述関係の場合は変調しないのに対し、並列関係・動目関係・修飾関係の場合は、通常変調が生じる。各タイプの例は (xix) から (xxii) に示す。本稿では、連続変調が生じる場合、上段の数字を原調値、下段の数字を変調後の調値として示す。

(xix)	主述関係	T1+T1	山崩	[sua ²⁴ paŋ ²⁴]	→	変調しない	「山崩れ」
(xx)	並列関係	T1+T4	兄弟	[hia ²⁴ ti ³³]	→	[hia ³³ ti ³³]	「兄弟」 ((iv) を再掲)
(xxi)	動目関係	T1+T2	施肥	[ei ²⁴ pui ²²]	→	[ei ³³ pui ²²]	「施肥する」 ((ii) を再掲)
(xxii)	修飾関係	T1+T3	芳水	[p ^h aŋ ²⁴ tsui ⁴²]	→	[p ^h aŋ ³³ tsui ⁴²]	「香水」 ((iii) を再掲)

2. 受動表現（語学研究所論集 第14号）

1_1 AはBに叩かれた^{2,3}.

(1)	妃宋	给	彩玲	拍	啦.
	vi ⁵⁵ sɔŋ ²¹	k ^h i ⁵⁵	tɕai ⁴² leŋ ²²	p ^h a ⁵⁵	la ⁴²
	PSN	PASS	PSN	hit	PFV
	「妃宋は彩玲に叩かれた。」				

(1) に示すように、雷州方言では通常、前置詞「给」(*k^hi⁵⁵*) を用いて受動文を形成する。直接受動は「被動者＋给＋動作主＋動詞」の形を取る。

² 本稿で用いる雷州方言の漢字表記は、主として『雷州方言詞典』（1998）に準拠する。本稿では、可能な限り漢字表記を付すが、対応する漢字が不明な形態素については「□」で示す。

³ 雷州方言における「妃」(*vi⁵⁵*) は、姓・名・愛称などの前に付く接頭辞であり、男女いずれの人名にも用いられる。

1_2 A は B に足を踏まれた⁴.

- (2) a. 妃宋 阿 骸 给 彩玲 踏 倒.
 vi⁵⁵soŋ²¹ a⁵⁵ k^ha²⁴ k^hi⁵⁵ t^hai⁴²leŋ²² ta³³ tɔ⁴²
 PSN POSS foot PASS PSN step.on RES
- b. 妃宋 给 彩玲 踏 阿 骸 倒.
 vi⁵⁵soŋ²¹ k^hi⁵⁵ t^hai⁴²leŋ²² ta³³ a⁵⁵ k^ha²⁴ tɔ⁴²
 PSN PASS PSN step.on DEM foot RES
 「妃宋は彩玲に足を踏まれた。」

(2a) に示すように, 身体部位の持ち主への被害を示す受動は, 持ち主と身体部位を所有標識「阿」(a⁵⁵) で連結し, その全体を主語とすることができる. 一方, 身体部位を動詞の後ろに置くことも可能である. この場合, 「阿」(a⁵⁵) は指示詞として機能し, 話し手と聞き手の双方にとって既知の対象を指す (cf. 蔡 1993: 128, 胡 2022: 26).

1_3 A は B に財布を盗まれた⁵ ⁶.

- (3) a. 妃宋 阿 钱包 给 彩玲 偷 去 啦.
 vi⁵⁵soŋ²¹ a⁵⁵ tɛi²²pau²⁴ k^hi⁵⁵ t^hai⁴²leŋ²² t^hau²⁴ k^hu²¹ la⁴²
 PSN POSS wallet PASS PSN steal away PFV
 「妃宋は彩玲に財布を盗まれた。」
- b. *妃宋 给 彩玲 偷 阿 钱包 去 啦.
 vi⁵⁵soŋ²¹ k^hi⁵⁵ t^hai⁴²leŋ²² t^hau²⁴ a⁵⁵ tɛi²²pau²⁴ k^hu²¹ la⁴²
 PSN PASS PSN steal DEM wallet away PFV
 「妃宋は彩玲に財布を盗まれた。」

分離可能な所有物の持ち主への被害を示す受動では, (3a) に示すように, 持ち主と所有物を所有標識で連結し, その全体を主語とする必要がある. (3b) のように持ち主と所有物を切り離して表現すると不自然である.

1_4 昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた. それでちっとも眠れなかった⁷.

- (4) a. 昨冥 我 给 阿 依团 哭 倒 就 无 □ 得 倒 觉. (協力者 A)
 t^hɔ³³mɛ²² va⁴² k^hi⁵⁵ a⁵⁵ nɔŋ⁴²kiã⁴² k^hau²¹ tɔ⁴² tɛiu³³ vɔ²² k^hɔi⁵⁵ tɛk⁵ tɔ⁴² kiã²¹
 last.night 1SG PASS DEM baby cry RES EMP NEG sleep POT RES sleep
 「昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた. それでちっとも眠れなかった。」

⁴ 助詞「倒」の発音について, 協力者 A (硯洲島南部出身) は [lɔ⁴²], 協力者 B (硯洲島中部出身) は [tɔ⁴²] と発音する. 『雷州方言詞典』(1998) では [tɔ⁴²] と表記され, 筆者は [lɔ⁴²] を [tɔ⁴²] の弱化形と考える. したがって, 本稿では「倒」の発音表記を [tɔ⁴²] に統一する.

⁵ 協力者 B によれば, 「財布」は「銀包」(ŋiɛŋ²²pau²⁴) とも言う.

⁶ 結果補語として用いられる「去」は弱く発音され, [u²¹] に変化することもある.

⁷ 「寝る」を表す動詞は, 雷州方言では k^hɔi⁵⁵ または k^hɔi⁵⁵kiã²¹ という. 後者は二音節動詞であり, 中間に助詞や数量詞などの要素を挿入することが可能である. このような分離可能な動詞は離合詞と呼ばれ, 標準中国語や他の中国語方言においても観察される. 便宜上, 本稿では分離された二音節のそれぞれに sleep のグロスを付すことにする.

- b. 昨冥 我 给 阿 依团 吵 倒 都 无 □ 得 熟. (協力者 B)
 ts^ha³³mɛ²² va⁴² k^hi⁵⁵ a⁵⁵ nɔŋ⁴²ki^a⁴² ts^ha⁴² tɔ⁴² tɛu²⁴₃₃ vɔ²² k^hɔi⁵⁵ tiek⁵ eiak³
 last.night 1SG PASS DEM baby disturb RES EMP NEG sleep POT deeply
 「昨日の夜、私は赤ん坊に邪魔された。それで全然ぐっすり眠れなかった。」

自動詞に基づく間接受動については、雷州方言では受動表現を用いることが可能である。

1_5 新しいビルが (A によって) 建てられた.

- (5) 新 新 这 栋 楼 是 妃宋 做 好 其.
 eiɛŋ²⁴₃₃ eiɛŋ²⁴ zia⁵⁵ tɔŋ³³ lau²² ei³³ vi⁵⁵sɔŋ²¹ tsɔ⁵⁵ hɔ⁴² kai²²
 new new this CLF building COP PSN build RES NMLZ
 「この新しいビルは妃宋が建てたものだ。」

無生物が主語となる場合、一回限りの事柄については、受動文は用いられにくい。(5) のようなコピー文のほうが自然である。

1_6 カナダではフランス語が話されている.

- (6) a. 广州 讲 白话.
 kuan⁴²teiu²⁴ kɔ⁴² pɛ²²ue²⁴
 PLN speak Cantonese
 「広州では (人々が) 広東語を話している。」
- b. 广州 依 讲 白话.
 kuan⁴²teiu²⁴ naŋ²² kɔ⁴² pɛ²²ue²⁴
 PLN person speak Cantonese
 「広州の人は広東語を話す。」

同じく無生物が主語であり、事態が恒常的である場合には、受動文は用いられない。

1_7 財布が (A に) 盗まれた.

- (7) a. 阿 钱包 给 妃宋 偷 去 啦.
 a⁵⁵ tei²²pau²⁴ k^hi⁵⁵ vi⁵⁵sɔŋ²¹ t^hau²⁴ k^hu²¹ la⁴²
 DEM wallet PASS PSN steal away PFV
 「財布が妃宋に盗まれた。」
- b. 阿 钱包 给 依 偷 去 啦.
 a⁵⁵ tei²²pau²⁴ k^hi⁵⁵ naŋ²² t^hau²⁴ k^hu²¹ la⁴²
 DEM wallet PASS person steal away PFV
 「財布が盗まれた。」

被害が予想される場合には、受動文が自然に用いられる。ただし、雷州方言では動作主の省略はできない。(7b) のような動作主を特定できない場合でも、「人」に相当する語を明示する必要がある。

1_8 壁に絵が掛けられている⁸.

- (8) 阿 墙 上 挂 倒 一 幅 画.
 a⁵⁵ tɕʰiɔ²² tɕiɔ²⁴ kʰua²¹ tɔ⁴² a³³ pak⁵ hua³³
 DEM wall on hang RES one CLF painting
 「壁に絵が掛けられている。」

結果状態を表す場合には, 受動文は通常用いられない. 存在構文で表すのが一般的である.

1_9 AはBに／から愛されている.

- (9) a. 彩玲 中意 妃宋. (協力者 A)
 tsʰai⁴²leŋ²² tsɔŋ^{55;21} vi⁵⁵sɔŋ²¹
 PSN favor PSN
 「彩玲は妃宋が好きだ。」
 b. 彩玲 惜 妃宋. (協力者 B)
 tsʰai⁴²leŋ²² tsʰɔi⁵⁵ vi⁵⁵sɔŋ²¹
 PSN love PSN
 「彩玲は妃宋を愛している。」

感情述語の場合には, 受動文は用いられない.

1_10 AはBに／から「…」と言われた.

- (10) 彩玲 共 妃宋 讲: “明日 □ 上课”.
 tsʰai⁴²leŋ²² kaŋ²⁴ vi⁵⁵sɔŋ²¹ kɔ⁴² hieŋ⁵⁵ziək³ ai⁵⁵ tɕiɔ³³kʰɔ²¹
 PSN PREP PSN say tomorrow have.to go.to.class
 「彩玲は妃宋に「明日は授業がある」と言った。」

伝達動詞の場合にも, 受動文は通常用いられない.

1_10_a AさんはBさんに呼ばれて, 今Bさんの部屋に行っています.

- (11) a. 妃宋 给 彩玲 喊 去 伊 房 啦. (協力者 A)
 vi⁵⁵sɔŋ²¹ kʰi⁵⁵ tsʰai⁴²leŋ²² hiam²¹ kʰu²¹ i²⁴ paŋ²² la⁴²
 PSN PASS PSN call go 3SG room PFV
 「妃宋は彩玲に彼女(彩玲)の部屋へ呼ばれた。」

⁸ 協力者 A・B の産出文は同一だが, 発音には若干の差異がある. 協力者 A は「一幅」を [a³³pak⁵] と発音し, 協力者 B は [ziak³hok⁵] と発音する.

- b. 妃宋 给 彩玲 喊 去 啦,
 vi⁵⁵soŋ²¹ k^hi⁵⁵ ts^hai⁴²leŋ²² hiam²¹ k^hu²¹ la⁴²
 PSN PASS PSN call go PFV
 现旦 伫 彩玲 阿 房 里. (協力者 A)
 hiŋ⁵⁵ta²⁴ tu³³ ts^hai⁴²leŋ²² a⁵⁵ paŋ²² li⁴²
 now EXIST PSN POSS room inside
 「妃宋は彩玲に呼ばれて、今彩玲の部屋にいます。」

- c. 妃宋 给 彩玲 喊 去,
 vi⁵⁵soŋ²¹ k^hi⁵⁵ ts^hai⁴²leŋ²² hiam²¹ k^hu²¹
 PSN PASS PSN call go
 现旦 讨 去 彩玲 阿 房. (協力者 B)
 hiŋ⁵⁵ta²⁴ t^hɔ⁴² k^hu²¹ ts^hai⁴²leŋ²² a⁵⁵ paŋ²²
 now need.to go PSN POSS room
 「妃宋は彩玲に呼ばれて、今彩玲の部屋に行っています。」

「呼ぶ」という動詞を用いる場合には、受動表現が可能である。(11a)のように単文で述べることも、(11b)・(11c)のように二つの節から成る複文で述べることもできる。後者の場合には、後半の主語は省略可能である。

1_10_b BさんがAさんと呼んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

- (12) a. 彩玲 喊 妃宋 现旦 □ 去 彩玲 阿 房. (協力者 A)
 ts^hai⁴²leŋ²² hiam²¹ vi⁵⁵soŋ²¹ hiŋ⁵⁵ta²⁴ ai⁵⁵ k^hu²¹ ts^hai⁴²leŋ²² a⁵⁵ paŋ²²
 PSN call PSN now have.to go PSN POSS room
 「彩玲が妃宋に、今彩玲の部屋へ行くように言っている。」
- b. 彩玲 喊 妃宋 去,
 ts^hai⁴²leŋ²² hiam²¹ vi⁵⁵soŋ²¹ k^hu²¹
 PSN call PSN go
 妃宋 现旦 伫 彩玲 阿 房. (協力者 B)
 vi⁵⁵soŋ²¹ hiŋ⁵⁵ta²⁴ tu³³ ts^hai⁴²leŋ²² a⁵⁵ paŋ²²
 PSN now EXIST PSN POSS room
 「彩玲が妃宋と呼んで、妃宋は今彩玲の部屋にいます。」

(11)の文を能動文に改めると(12)となる。ここでも、(12a)のように単文で述べることも、(12b)のように複文で述べることもできる。後者では前後で主語が異なるため、後半の主語は通常省略されない。

略号一覧

1		一人称	PASS	passive	受身
2		二人称	PFV	perfective	完結
3		三人称	PLN	place name	地名
CLF	classifier	助数詞	POSS	possessive	所有
COP	copula	コピュラ	POT	potential	可能
DEM	demonstrative	指示詞	PREP	preposition	前置詞
EMP	emphatic	強調	PSN	person name	人名
EXIST	existential	存在	RES	resultative	結果
NEG	negative	否定	SG	single	単数
NMLZ	nominalizer	名詞化			

参考文献

- 蔡叶青. 1993. 『海康方言志』 (海康県方言誌) 中山大学出版社.
- 甘于恩 & 周洪涛. 2005. 「典型特点与变异特点—域内闽语与周边闽语之语音比较—」 (典型的特徴と変異的特徴—域内の閩語と周辺閩語の音韻比較—) 『暨南学报 (哲学社会科学版)』 115. 86–91, 142.
- 侯精一. 2002. 『现代汉语方言概论』 (現代中国語方言概論) 上海教育出版社.
- 胡越余. 2022. 「粤西闽语雷州 (官长) 方言的助词研究」 (広東省西部雷州 (官長) 方言における助詞の研究) 福建師範大学修士論文.
- 李荣, 张振兴 & 蔡叶青. 1998. 『雷州方言词典』 (雷州方言辞典) 江蘇教育出版社.
- 林伦伦. 2006. 『粤西闽语雷州话研究』 (広東省西部閩語雷州方言研究) 中華書局.
- 钱奠香. 2002. 『瓊雷閩語特征詞初探』 (瓊雷閩語の特徴語彙に関する予備的考察) 李如龙 (編) 『汉语方言特征詞』 (中国語方言の特徴語彙), 377–389. 厦門大学出版社.
- 张振兴. 1986. 「广东省雷州半岛的方言分布」 (広東省雷州半島の方言分布) 『方言』 3. 204–218.
- 张振兴. 1987. 「广东海康方言记略」 (広東省海康 (雷州) 方言概説) 『方言』 4. 264–282.
- 张振兴 & 蔡叶青. 1998. 「引论贰: 雷州方言的内部差别」 (序論II: 雷州方言の内部差異) 李荣, 张振兴 & 蔡叶青 (編) 『雷州方言词典』 (雷州方言辞典), 3–5. 江蘇教育出版社.
- 中国社会科学院 & 澳大利亚人文科学院. 1987. 『中国语言地图集』 (中国言語地図集) 香港朗文 (遠東) 出版公司.
- 中国社会科学院语言研究所, 中国社会科学院民族学与人类学研究所 & 香港城市大学语言资讯科学研究中心. 2012. 『中国语言地图集 (第2版): 汉语方言卷』 (中国言語地図集 (第2版): 中国語方言卷) 商務印書館.
- 朱月明. 2005. 「雷州话与普通话音系比较研究」 (雷州語と標準中国語の音韻体系の比較研究) 『云南师范大学学报 (哲学社会科学版)』 37(5). 133–136.

広東省自然資源庁 広東省公共地図ネット (2025年11月8日最終確認)

<https://guangdong.tianditu.gov.cn/ggdt/#/public/home-page>

執筆連絡先: tankunming0759@gmail.com

原稿受理: 2025年11月12日

刊行年月日: 2026年3月31日